

はじめに—『神学大全』をどう読むか

中世スコラ哲学の最盛期を飾る大著

- 1) 21世紀の私たちにとって、
知的挑戦の古典
限りなき知的探求への招待の古典
- 2) トマス・アクィナス (1225 頃–1274)
ローマとナポリの間にあるロッカ・セッカ生まれ
説教者修道会(ドミニコ会)に入会
ドミニコ会のモットー「真理について観想したことを他の人々に伝えること」
知的探求の根源「愛の重視」
- 3) 邦訳名『神学大全』→『Summa (要綱) Theologiae (神学)』
修道士の為の入門書 注) 著作は未完成
- 4) 『神学大全』の構成と表現スタイル
第1部 神について——119 問題
第2部 人間の神へ向かう動きについて——303 問題
第3部 キリストについて——90 問題
公開討論 (貴族・貴婦人・市民を前に)
対立する立場の対決・論戦 (ex 馬上槍試合)
- 5) 神学は論証により確立された知識 (scientia) の体系
光学は幾何学をベースに
音楽の学は数学をベースに
神学は、神の知 (Scientia) をベースに
「一なる神」「三位一体なる神」「存在そのものの神」の単純性、完全性、無限性、
不変性、永遠性
万人の精神 (人間の自然本性) に、神の認識が刻印されている
「5つの道」(後述)による神の存在論証
- 6) トマスの神学はその全体が神の知恵の探究であり神の知恵のみが人間の幸福を明らかにし、
神の知恵の探求こそが真実の幸福への道を切り開く営みにほかならない